

第 1 3 8 回 (令和6年10月) 情報処理技能検定試験(表計算) 4 級問題

<問 題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表を完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 試験時間は20分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

依頼先名	完成数	加工単価
朝日工業	3,769	138
東工作	3,153	194
カタクラ	3,962	127
森産業	3,359	176
小川工業	3,487	160
南部品	3,614	142
丸山電機	3,216	181
山田精工	3,508	154

<処理条件>

- <出力形式>のような支払額一覧表を作成しなさい。（ —— の部分は空白とする）
- 加工賃＝加工単価×完成数
割増金＝加工単価×0.5×(完成数－2,800)
支払額＝加工賃＋割増金
- 合計・平均（整数未満四捨五入の表示）を求めなさい。
- 罫線の太線と細線を区別する。（外枠は太線とする）

<出力形式>

支 払 額 一 覧 表

依頼先名	完成数	加工単価	加工賃	割増金	支払額
合 計		——			
平 均		——			

第 1 3 8 回 (令和6年10月) 情報処理技能検定試験(表計算) 3 級問題

<問 題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表を完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

CO	社員名	作業数	完成数
101	増山 勝人	3,069	3,036
102	西 美恵子	3,198	3,100
103	大和田 勇	2,975	2,853
104	杉下 正子	3,247	3,182
105	森口 洋二	3,390	3,118
106	川島 ユリ	3,126	2,905
107	原 ゆうき	3,254	3,080
108	中林 愛奈	2,953	2,753
109	田中 英樹	3,461	3,149

<評価表>

完成指数	評価
95 以上	A
それ以外	B

<処理条件>

- <出力形式>のような総支給額一覧表を作成しなさい。（——の部分は空白とする）
- 完成指数＝完成数÷作業数×100（整数未満切り捨て）
出来高給＝68×完成数
技能手当＝出来高給×5.6%×完成指数÷100（整数未満切り上げ）
総支給額＝出来高給＋技能手当
- 合計・平均（整数未満四捨五入の表示）・最小を求めなさい。
- 構成比率＝総支給額÷総支給額の合計（%の小数第1位未満四捨五入の表示）
- 評価は<評価表>を参照し、求めなさい。
- 完成指数の降順に並べ替えなさい。
- 罫線の太線と細線を区別する。（外枠は太線とする）

<出力形式>

総 支 給 額 一 覧 表

CO	社員名	作業数	完成数	完成指数	出来高給	技能手当	総支給額	構成比率	評価

(途 中 省 略)

——	合 計			——				——	——
——	平 均			——				——	——
——	最 小			——				——	——

	金額	値引額	増量数
平 均			
最 大			
最 小			

第 1 3 8 回 (令和 6 年 1 0 月) 情報処理技能検定試験(表計算) 2 級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

店頭販売			
CO	商品名	原価	販売数
101	商品E	1,890	709
102	商品F	2,030	531
103	商品G	1,680	556
104	商品H	2,310	514
105	商品I	1,570	620
106	商品J	2,140	542
107	商品K	1,920	658

通信販売			
CO	商品名	原価	販売数
101	商品E	1,890	715
102	商品F	2,030	621
103	商品G	1,680	714
104	商品H	2,310	581
105	商品I	1,570	678
106	商品J	2,140	521
107	商品K	1,920	619

<値引率表>

販売数	値引率
620 以上	12.4%
それ以外	8.3%

<評価表>

評価の条件	評価
店頭販売が 20 万以上かつ通信販売が 18 万以上の場合	優
店頭販売が 20 万以上または通信販売が 18 万以上の場合	良
それ以外	可

<処理条件>

- <出力形式1>のような販売一覧表(店頭販売)と(通信販売)の2つの表を作成しなさい。
(—— の部分は空白とする)
- 値引率は<値引率表>を参照し、求めなさい。(% の小数第 1 位までの表示とする)
売価 = 原価 $\times$ 1.3 $\times$ (1 - 値引率) (整数未満切り上げ)
販売額 = 売価 $\times$ 販売数
利益額 = 販売額 - (原価 $\times$ 販売数)
- 合計を求めなさい。
- <出力形式2>のような利益額総括表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
- 店頭販売・通信販売は、それぞれの表の利益額を表検索しなさい。
- 総利益額 = 店頭販売 + 通信販売
通販指数 = 通信販売 $\div$ 総利益額 $\times$ 100 (整数未満切り捨て)
- 評価は<評価表>を参照し、求めなさい。
- 合計を求めなさい。
- 通販指数の降順に並べ替えなさい。
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
- 利益額総括表の店頭販売と評価のセル証明をしなさい。
- 利益額総括表の店頭販売と通信販売の値を商品名別の縦棒グラフにしなさい。
タイトルは“商品別の集計グラフ”とし、凡例は“店頭販売”、“通信販売”とする。

<出力形式1>

販売一覧表 (——)

CO	商品名	原価	販売数	値引率	売価	販売額	利益額
——	合 計	——	——	——	——	——	——

<出力形式2>

利 益 額 総 括 表

CO	商品名	店頭販売	通信販売	総利益額	通販指数	評価
——	合 計	——	——	——	——	——

貸出先名	基本料金	追加料金
西日本工業		
アケノ水産		
NPK総業		
新東海科学		

第138回 (令和6年10月) 情報処理技能検定試験(表計算) 1級問題

＜問題＞

1. 下記の＜入力データ＞を基に、＜処理条件＞に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
2. 使用したテーブルを印刷しなさい。（表の形式は問わない）
3. データ保存またはすべての表の数式印刷をしなさい。
4. 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

会C O	商C O	数量	日数
101	11	9	11
101	12	5	13
101	13	12	10
101	14	10	9
102	11	6	11
102	12	6	9
102	13	13	10
102	14	5	14
103	11	7	12
103	12	8	10
103	13	11	9
103	14	9	13
104	11	10	9
104	12	7	11
104	13	8	12
104	14	6	14

＜会社テーブル＞

会C O	会社名
101	鈴木建設
102	中村住建
103	加藤建築
104	安心HD

＜商品テーブル＞

商C O	商品	基本単価	追加単価
11	K	4, 129	1, 981
12	L	5, 186	2, 489
13	M	3, 051	1, 464
14	N	3, 682	1, 767

＜割引率表＞

数量	割引率
10 以上	7.9%
7 以上 10 未満	6.8%
1 以上 7 未満	0.0%

<判定表>

数量	請求額	判定
10 以上 または	35 万以上	＊＊
それ以外		＊

<处理条件>

1. <出力形式 1>のようなレンタル料金一覧表を作成しなさい。（――の部分空白とする）
2. 会社名は<会社テーブル>を表検索しなさい。
3. 商品名は<商品テーブル>の商品を表検索し、“商品”の文字を関数または演算子を使用して結合しなさい。
(例 K商品)
4. 基本料金＝基本単価×9×数量（10 位未満四捨五入） ※基本単価は<商品テーブル>を参照する。
5. 追加料金＝追加単価×（日数－9）×数量 ※追加単価は<商品テーブル>を参照する。
補償料＝（基本料金＋追加料金）×3.8%（10 位未満切り上げ）
割引額＝（基本料金＋追加料金）×割引率（整数未満切り捨て） ※割引率は<割引率表>を参照する。
請求額＝基本料金＋追加料金＋補償料－割引額
6. 判定は<判定表>を参照し、求めなさい。
7. 合計を求めなさい。
8. <出力形式 1>と同じ形式で、数量が 8 以上で請求額が 36 万未満を抽出しなさい。
表題は“レンタル料金一覧表（数量 8 以上・請求額 36 万円未満）”とし、商 C O の昇順で請求額の降順に並べ替えなさい。
9. レンタル料金一覧表を基に<出力形式 2>のような処理をしなさい。
10. レンタル料金一覧表を基に<出力形式 3>のような処理をしなさい。（平均は整数未満四捨五入の表示とする）
11. 罫線の太線と細線を区別する。（外枠は太線とする）
12. <出力形式 2>の請求額を商品名別の円グラフにしなさい。
タイトルは“請求額の構成比”、凡例は商品名とし、%の小数第 1 位までの表示とする。

<出力形式1>

レ ン タ ル 料 金 一 覧 表

会CO	会社名	商CO	商品名	数量	日数	基本料金	追加料金	補償料	割引額	請求額	判定
(途 中 省 略)											
—	合 計	—	—								—

<出力形式2>

商品別集計表

商品名	基本料金	追加料金	請求額
K 商品			
L 商品			
M 商品			
N 商品			

<出力形式3>

数量が 9 未満で請求額が 35 万円以下の件数	
日数が 10 日以上で基本料金が 25 万円以上の補償料の合計	
商品名が K 商品または M 商品の請求額の平均	

第138回（令和6年10月）
情報処理技能検定試験（表計算）
初段 問題

試験時間	30分
------	-----

1. <入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成しなさい。
2. 表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
3. <出力形式>に「合計」「平均」などがある場合は、関数により処理を行うこと。ただし「——」部分は空白とする。
4. 表には罫線を引くこと。（罫線の太線と細線は区別する。外枠は太線とする。）
5. 使用したテーブルの表の形式は問わない。
6. [] 内文字はシート名とする。テーブルや作成する表にシート名があるものは、それぞれこのシート名でシートを作成し、処理を行うこと。

（例 <出力形式1> [前期]・[中期]・[後期] →前期、中期、後期の各シートを作成し、それぞれ指示された表を作成する。）
7. 作成したデータは事前に準備したファイル（初段・受験番号・名前）に上書き保存する。

（例：初段101日検太郎）

問 題

＜入力データ＞（24件）※テキストデータはSPS フォルダ内のデータを使用する。

〔データ表〕

得CO	商CO	日数
11X	101	11
11X	102	12
11X	103	9
11X	104	12
11X	105	6
：		
14X	102	9
14X	103	6
14X	104	13
14X	105	15
14X	106	6

＜商品テーブル＞〔テーブル〕

商CO	商品名	1日料金	OP単価		
			日数		
			1～6	7～9	10～
101	商品E	7,180	502	374	261
102	商品F	6,730	453	348	236
103	商品G	5,940	404	322	211
104	商品H	4,610	355	296	186
105	商品I	3,820	306	270	161
106	商品J	3,290	257	244	136

＜得意先テーブル＞〔テーブル〕

得CO	得意先名
11X	川村総業
12Y	加藤企画
13Y	中山商事
14X	KY物産

＜割引率表＞〔テーブル〕

料金合計	区分	
	X	Y
1 ～ 279,999	6.1%	6.7%
280,000 ～	7.3%	7.9%

※区分は得COの右から1文字目。

＜処理条件＞

- ＜入力データ＞（テキストデータ、日本語シフトJIS、CSV形式）、＜商品テーブル＞を使用し、＜出力形式1＞のような表を作成。

＜出力形式1＞〔データ表〕

得CO	商CO	商品名	日数	貸出料金	OP料金
(途中省略)					
合 計	—	—			

- 商品名は＜商品テーブル＞を表検索。
 - 貸出料金＝1日料金×日数（100位未満四捨五入）
 - OP料金＝OP単価×日数（10位未満切り捨て）
- ＜出力形式1＞、＜得意先テーブル＞、＜割引率表＞を基に、＜出力形式2＞のような表を作成。

＜出力形式2＞〔計算表〕

得意先別計算表

得CO	得意先名	料金合計	割引額	請求額	ポイント
(途中省略)					
—	合 計				

- 得意先名は＜得意先テーブル＞を表検索。
- 料金合計＝貸出料金＋OP料金 ※各項目は基表の同項目の値を集計。
- 割引額＝料金合計×割引率（100位未満切り上げ）
- 請求額＝料金合計－割引額
- ポイントは、料金合計が30万以上の場合、請求額×1.5%、それ以外は、請求額×1.2%。（整数未満切り捨て）

3. <出力形式1>、<商品テーブル>を基に、<出力形式3>のような表を作成。

<出力形式3> [計算表]

商品別総括表						
商C O	商品名	日数	貸出料金	O P料金	料金合計	判定
(途 中 省 略)						

- 1) 商品名は<商品テーブル>を表検索。
- 2) 日数・貸出料金・O P料金は、基表の同項目の値を集計。
- 3) 料金合計＝貸出料金＋O P料金
- 4) 日数が40以上またはO P料金がO P料金の平均以上に“*”の判定をする。
- 5) 日数の降順に並べ替え。

4. <出力形式1>を基に、<出力形式4>のような表を作成。

<出力形式4> [計算表]

得C Oが11Xまたは日数が9日以下のO P料金の平均	
貸出料金が50,000円未満でO P料金が2,000円以上の件数	
O P料金が最大の商品名	

- 1) 上記表の条件に合う値を、基表から集計。（平均は整数未満四捨五入の表示）
5. <出力形式3>を基にグラフを[計算表]シートに作成。
- 1) グラフの種類は、商品名別の日数を折れ線、料金合計を縦棒にした複合グラフ。
 - 2) グラフタイトル、凡例は以下のとおりにする。

